

# 「新城小学校の新城鎌ん手踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

垂水市立新城小学校

## 2 学年・人数

1年生 4人 2年生 2人 3年生 4人  
4年生 6人 5年生 2人 6年生 1人（計19人）

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

平成29年6月22日（木）～9月20日（水）  
垂水市立新城小学校（体育館，校庭）

### (2) 発表の場所・日時

平成29年8月29日（火）…新城地区六月灯  
9月25日（月）…新城小・新城地区合同運動会  
11月23日（木）…新城地区文化祭

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

### (1) 名称

新城鎌ん手踊り（しんじょうかまんておどり）

### (2) 由来

安永8年，桜島が大爆発した。その被害は甚大で，農作物は降灰のため収穫が皆無となり，農民全員が生活苦に悩まされた。当時，新城領主であった末川久備公は，貯蔵米を放出して領民に米を施した。その年の年貢は取止められ，更に農民の士気を鼓舞するため民芸大会が開催された。民芸大会は，各集落ごとに民芸団を組織して行われたが，そのとき新城大浜集落が踊ったのが鎌ん手踊りであった。村人全員が参加して盛大に開かれ，以来，村の行事として，祝いごとや祭りの折に氏神に奉納されてきた。

### (3) 構成等

揃いの衣裳に鉢巻，色とりどりのタスキに身を固め，りりしい姿で踊る。カマ，ナタ（ナギナタ）4人1組で前と後ろに位置し，唄声に合わせて，威勢のいい掛け声とともに，カマとナタとをつばぜり合わせながら舞う。つばぜり合いの際，櫂の棒が「カチン」と響く様が勇壮である。

## 5 保存会や地域との連携の具体

鎌ん手踊りは，新城公民館に所属する「ふるさと先生」が指導を担う。地域の住民が集う六月燈，運動会，文化祭で踊られ，季節の節目を彩り，地域が一つになる大切な伝承芸能であるという意識が高い。

地域社会の一員として児童，保護者，教職員はこの行事に愛着をもって参画する。「ふるさと先生」は，幅広い人々が所属し，先輩から後輩へと伝承する形式をとっている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

先輩から後輩へと伝承する鎌ん手踊りでは，地域のかつての踊り手から子どもたちへ賞賛や励まし，アドバイスをを行う。本番当日，保護者は，踊り手であ

る子どもたちを激励しながら伝統を託すように着物の着付けを手伝っている。

児童数が減少しているため、入学したばかりの小学校1年生も鎌 hands 踊りの大切な担い手である。「ふるさと先生」はすべての子どもたちに愛情をもって、しかし時には厳しく教えている。指導者の情熱に、子どもたちのみならず、保護者、教職員は、大きな影響を受けている。この鎌 hands 踊りを通して地区は一つになっている。これからも、伝統は途絶えることはない。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



## 8 参加児童生徒・保護者・地区会・教員等の感想・意見

### 【参加児童】

- ・ 六月どうの会場には、たくさんの方がいて気合が入った。着物を着ると気持ちが高まった。父さんも昔、踊っていた。父さんにほめられうれしかった。やり終えた後は気持ちがすっきりした。
- ・ 最初の練習を終えた時には、家に帰ってからご飯がのどに通らないくらいつかれた。本番では、体力が付き、大きく踊ることができた。

### 【保護者】

- ・ 去年よりたくましい踊りになっていた。子どもの成長を改めて感じた。
- ・ 後輩にしっかり教えて継いでほしい。

### 【地区会】

- ・ 踊り手、保護者、先生方が頑張ってくれた。
- ・ 伝統の火が消えないように、地区を挙げて指導者を増やしていきたい。

### 【教員】

- ・ 1つの行事をやり終えるごとに新城地区への愛着が深まるようだ。
- ・ 大きな町では味わえない地域との密着感がここにはある。
- ・ 地域の方々の子どもへの指導には本当に頭が下がる。